

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 結果・学校関係者評価

| 達成度（評価） | |
|---------|-------------|
| A | 十分達成できている |
| B | おおむね達成できている |
| C | やや不十分である |
| D | 不十分である |

| | |
|------------------|--|
| 学校名 | 鳥栖市立旭小学校 |
| 1 前年度 評価結果の概要 | <ul style="list-style-type: none"> ・学力の定着に向け算数科を中心に授業改善に取り組んできた。その結果、指導法に関する教師の意識は高まってきている。児童の学力は数値的には改善していない。今後は「対話的な学び」を軸に学力の定着を目指し、さらに主体的な学びになるよう、授業改善を目指していく。 ・児童の善い行いを全校で紹介する校内掲示「心のつみ木」が定着し、児童の思いやりの心が育っている。一方で、今年度は不登校傾向の児童が増加した。SCを活用した教育相談等の研修を行い、児童の心の安定のため、友達、教師との信頼関係づくりを力を入れていく必要がある。 ・特別支援学級が次年度は3学級増となり、在籍児童数も100名を超える。そのため、全職員の専門性の向上による、インクルーシブ教育推進が求められる。 |
| 2 学校教育目標 | 旭を愛し、やさしく・かしこく・たくましく生きる児童の育成 |
| 3 本年度の重点目標 | <ul style="list-style-type: none"> ①分かりやすい授業の実践による児童の学力向上 ②学力向上につながる家庭学習の推進 ③特別支援教育についての専門性の向上と実践 |

| 4 重点取組内容・成果指標 | 5 最終評価 |
|---------------|--------|
|---------------|--------|

| (1)共通評価項目 | | | | 最終評価 | | 学校関係者評価 | |
|------------|--|--|---|---------|----|---------|---|
| 評価項目 | 重点取組 | | 具体的取組 | 達成度（評価） | | 実施結果 | |
| | 取組内容 | 成果指標（数値目標） | | 達成度 | 評価 | 評価 | 意見や提言 |
| ●学力の向上 | ○学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践 ○県から旭小からの「家庭学習の手引き」をもとにしながら、家庭学習の推進を図る。 | ○対話的な学びを通して考えが広がった・深まったと感じる児童の割合が85%以上 ○授業づくりのステップ1・2・3のチェックシートを活用し、授業力が向上したと感じた教師の割合が85%以上 ○学期に1回「旭っ子学習の記録（家庭学習調べ）」において、めあて達成の児童の割合が85%以上 | ・校内研究の教科である算数科を中心に、「対話的な学び」に視点を置きながら授業改善を図る。 ・「授業づくりのステップ1・2・3」等を生かしながら、学習内容の定着を図るため分かりやすい授業に取り組む。 ・学期に1回「旭っ子学習の記録（家庭学習調べ）」を行い、自己目標達成を目指すしながら、家庭学習の推進を図る。 | A | B | B | ・授業改善の成果が見られ、児童の対話的学習等は十分に評価できる。今後の学びも期待できる。 ・保護者は、児童の学力の定着について否定的な回答が27.9%みられ、児童や教師との差が見られる。 |
| | ●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動 | ○学校アンケートで「友達に優しくしたり、友達と仲良くしたりすることができる。」に肯定的な回答をする児童が85%以上。 | ・人権意識を高める人権集会やアンケートの実施 ・特別の教科道徳の授業公開 | A | A | A | ・児童の評価が高いのは、活動や取組の結果である。「友達に優しくしたり、友達と仲良くしたりすることができる。」ということが、なぜ必要か、その大切さを実践でより多く伝えることが、さらなる成果につながる。 ・24時間で考えると、家庭で過ごす時間も長い。保護者を含めさらに推進してほしい。 |
| ●心の教育 | ●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実 | ○いじめ防止等（いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等）について組織的対応ができていると回答した教師85%以上 | ・「いじめ・いのちを考える日」に合わせて、毎月アンケートを実施 ・研修会の実施 | A | B | B | ・現状を見ると十分対応できており、取組の成果は見られる。この問題は深いので、いかに日頃からアンテナを張っているかが必要だと思う。 ・毎月のアンケートはよいが、先生に相談できない児童も28.4%と多い。改善の余地がある。 |
| | ●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動 | ●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒85%以上 ●◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒85%以上 | ・「ほめるからはじめる。はじまる。」を言葉に、児童のよさに目を向け、ほめる。 ・毎月の「こころのめあて」をテーマに実践している友達の善い行いを見つけ、校内掲示「心のつみ木」に書かせ、校内放送で全校に紹介する。 | A | B | B | ・ほめる教育は非常に大切で、先生たちが児童一人一人に接することによって、自分の殻に入っている児童を引っ張り出すことができると思う。 ・休み時間に校長室で自由に話ができることがよい。 ・下校時に児童が話し合いながら帰っているのを見る。 |
| | ●望ましい生活習慣の形成 | ・「体の成長を考えて、よりよい運動・食事・睡眠を意識して取り組んでいる」と回答した児童80%以上 | ・運動・食事・睡眠に関する意識調査の実施 ・望ましい生活習慣について、興味・関心を高める取り組みを各委員会（体育・給食・保健）で行う。 | A | B | B | ・保護者の協力が絶対必要であり、親子で関心を高めるような企画を行ってほしい。 |
| ●健康・体づくり | ①安全に関する資質・能力の育成 | ・児童生徒の交通事故を0（ゼロ）にする。 | ・交通安全の実施 ・課題を設定し、児童の交通安全への意識向上を目指す。 | A | A | A | ・自分の命は自分で守ることの一環として交通安全教育は必要なので、取組の強化・継続を進めていきたい。交通指導員、スクールガードボランティアの協力を得て、今後も交通安全に取り組む。 ・朝の見守り時に一人で遅く登校している児童がいる。保護者の見守り、声かけが必要。 |
| | ●業務改善・教職員の働き方改革の推進 | ●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減 | ●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 | A | A | A | ・校時表の変更・改善により、教職員の放課後の時間が増えたことで時間の使い方に幅ができたと思う。 ・十分考慮されていると思うので、さらに推進してほしい。 |
| ●特別支援教育の充実 | ○インクルーシブ教育の実践充実 | ○特別支援教育に関する専門性が向上し、学級経営や授業に反映させることができたと感じる教職員60%以上 | ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた指導に関する全体研修会の実施 | A | A | A | ・研修会参加により、職員個々の思いが大切で、知識を得ることができ、特別支援教育に関する専門性向上などを含めた教育を推進してほしい。 |

| (2)本年度重点的に取り組む独自評価項目 | | | | 最終評価 | | 学校関係者評価 | |
|----------------------|-------------------|--|---|---------|----|---------|---|
| 評価項目 | 重点取組 | | 具体的取組 | 達成度（評価） | | 実施結果 | |
| | 重点取組内容 | 成果指標（数値目標） | | 達成度 | 評価 | 評価 | 意見や提言 |
| ★小中一貫教育の充実 | ★教科「日本語」の実践充実 | ★保護者・地域等に対する教科「日本語」の授業公開学級率80%以上 ★保護者等に対する教科「日本語」に係る情報を年間3回以上公開した学級率80%以上 | ・参観日等に教科「日本語」の授業を公開できるように呼びかけ、授業公開率を90%以上に上げる。 ・各種通信を活用して、取組を紹介する。 | A | B | B | ・教科「日本語」の学習は楽しいと感じている児童が多い中、25%の児童が楽しくないと回答している。児童が楽しめる授業を行い、保護者のさらなる認識が増加するようにぜひ推進してほしい。 |
| | ○コミュニティ・スクールの実践充実 | ○教育活動において地域人材を活用し、教育活動が充実したと感じる教師60%以上 | ・地域人材を活用した教育活動に取り組む。 | A | A | A | ・今後も地域人材の活用による教育活動を実施してほしい。 |

| | | | | | | | |
|------------------------|---|--|--|--|--|--|--|
| ●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育 | | | | | | | |
| 5 総合評価・次年度への展望 | <p>「対話的な学び」を軸に学力の定着に向け算数科を中心に授業改善に取り組んできた。その結果、児童の学力は全学年で昨年度より向上した。今後はさらに主体的な学びになるよう、授業改善を目指していく。</p> <p>・「家庭学習の手引き」をもとに、学期に1回「旭っ子学習の記録（家庭学習調べ）」を行い、自己目標達成を目指すしながら、家庭学習の推進を図ってきた。その結果、めあてを達成した児童の割合が回を重ねることに増加した。家庭の協力を仰ぎながら、引き続き取組の推進を図っていく。</p> <p>・特別支援教育について全職員の専門性の向上をめざし、学級経営や授業に反映させるインクルーシブ教育を推進してきた。その結果、全職員が、専門性を高めることができたと感じている。次年度も、全ての児童にとって居心地のいい学校、学級になるような支援を目指して、インクルーシブ教育を推進していく。</p> | | | | | | |